

A. 主な動き

1. 内政

・3日、モルドバの欧州統合路線を支持する集会がキシナウ市内で開催。ティモフティ大統領は、同集会において、欧州統合は国家の経済成長、生活の質の向上及び将来的な計画を確保するために重要である旨演説。4日、フィラト自由民主党党首は、同集会で採択された宣言文書は欧州統合に向けた政府の活動におけるロード・マップとなるであろう旨発言。

・6日、ルプ民主党党首は、民主党は欧州統合に向けた地方レベルでの市民運動を7日より開始する旨発表。7日、民主党は、議会会派長のディアコフ名誉党首からルプ党首への変更を発表。

・7日、共産党は、21日までのレアンカ内閣の退陣及び繰り上げ総選挙実施の決定を要求する旨の声明を発表。一方、コルマン議会議長は、共産党には野党としての建設的な姿勢を求める旨改めて発言。

▼世論調査

〔社会・人口学協会〕

・近日中に総選挙が実施された場合の候補者支持率(投票意思のない者を除く)

共産党:39.3%、自由民主党:16.9%、民主党:10.2%、自由党:7.1%、社会党:4.9%、自由改革党:2.6%等

・調査は10月21日から11月2日にかけて全国79カ所の1,192名の成人を対象に実施。

2. 経済

▼マクロ経済

・7日、世銀は、モルドバの出稼ぎ労働者からの送金額が、本年1～9月期で昨年同時期比8%増の約11億6,000万米ドル(GDPの20～30%)となり、本年の送金総額が最大で20億米ドルに達するであろう旨発表(これまでの最高額は2008年の約15億米ドル)。

3. 外交

▼レアンカ首相のウクライナ訪問

・5日、レアンカ首相は、ウクライナを公式訪問し、ヤヌコーヴィチ大統領と会談。両者は、二国間関係の良好な関係を維持し、両国の経済協力の促進及び国際場裡において協力し合うことで一致。レアンカ首相は、ウクライナが沿ドニエストル問

題解決に向け重要な役割を果たしている旨発言。

・5日、レアンカ首相は、アザーロフ首相と会談。アザーロフ首相が、両国間対話が活発であることに歓迎の意を表したのに対し、レアンカ首相はウクライナはモルドバの戦略的パートナーである旨発言。両者は、2014年第1四半期に経済協力に関する政府間委員会の通常会合を開催することで一致。また、レアンカ首相がアザーロフ首相をモルドバに招待したのに対し、アザーロフ首相はこれを受ける意を表明。

▼ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相の訪仏

・6～8日、ゲルマン副首相兼外務・欧州統合相は、ファビウス仏外相の招きで訪仏。両者は両国関係及びモルドバ・EU連合協定の行方等に関し協議。両者は、モルドバ・EU連合協定が2014年中に署名されることの重要性を共有。

▼ルービン米国国務次官補代理の来訪

・8日、ティモフティ大統領は、来訪したルービン欧州・ユーラシア担当米国国務次官補代理と会談し、米国による政治経済面での支援及び沿ドニエストル問題解決に向けての貢献に謝意を表明し、両国関係を更に発展させる必要性に言及。これに対しルービン次官補代理は、モルドバは民主主義が支配する欧州に属す旨述べ、モルドバがコソボへ国連平和維持ミッションに参加を決定したことを歓迎。

▼その他

・7日、モルドバ議会は、トルクメニスタンとの二重課税及び脱税防止条約を批准。

4. 沿ドニエストル

▼「5+2者」公式会合

・7日、ザニエルOSCE事務総長は、11月25、26両日、キエフにおいて開催される次回「5+2者」公式会合では、ドニエストル川兩岸の通行の自由等の重要課題に関し進展があることを期待する旨発言。

▼その他

・4日、シェフチューク「大統領」は、対外経済活動における規則の変化は沿ドニエストルに対する圧力となる可能性があるため、モルドバとEU間のDCFTAは沿ドニエストルにそのまま適用されるべきではない、沿ドニエストルがモルドバから平和的に「離別」をすることが現時点での最も好ましい沿ドニエストル問題の解決策と考えられる旨発言。

※本週報ではモルドバの首都名「キシニョフ」(ロシア語読み)を暫定的に「キシナウ」(モルドバ語読み)と表記しています。
(了)